

| | | | | | | |
|-----------|---|-------------|------------------|-------------|--------------|------|
| 申請者 | 学科名 | 看護学科 | 職名 | 准教授 | 氏名 | 池田理恵 |
| 調査研究課題 | 産後うつとの社会文化的背景と睡眠状況に関する日本と香港の比較研究 | | | | | |
| 調査研究組織 | 氏名 | 所属・職 | | 専門分野 | 役割分担 | |
| | 代表 | 池田 理恵 | 看護学科 | 母性看護学・助産学 | 研究統括・研究の遂行 | |
| | 分担者 | 井上 幸子 | 看護学科・准教授 | 精神看護学 | 研究計画、データ収集分析 | |
| | | 高橋 幸子 | 看護学科・教授 | 応用言語学・英語教育学 | 研究計画、データ分析 | |
| | | Vivian Ngai | 香港理工大学・准教授 | 助産学 | 研究計画、データ分析 | |
| | | 滝川 由香里 | 看護学科・助教 | 母性看護学・助産学 | データ収集、分析 | |
| | | 岡田 優希 | 保健福祉学研究科博士前期課程1年 | 地域看護学 | データ収集、分析 | |
| 本山 智 | 保健福祉学研究科博士前期課程1年 | 精神看護学 | データ収集、分析 | | | |
| 田栗 美咲子 | 保健福祉学研究科博士前期課程1年 | 基礎看護学 | データ収集、分析 | | | |
| 調査研究実績の概要 | <p>申請者の所属する教育研究機関と学術交流協定を締結している海外大学（香港理工大学）の看護学を専門とする教員が共同で研究を実施する計画で、国内外で同様の調査票（日本語版、英語版）を用いて産後の女性を対象に調査を実施するため、各国にそれぞれ研究協力機関となる医療機関や地域保健センターなどに調査協力を依頼する。2016年度は海外研究者との打ち合わせ、各国で広く利用されている産後うつ評価尺度EPDSを盛り込んだ共通の調査票案の作成、翻訳作業を行予定で、現在、文献検討が終了し、調査票の確定の前段階にある。また、両国の研究者が所属する機関の倫理委員会の承認を得よう準備する。</p> <p>平成28年9月17日—24日に香港理工大学にて共同研究者と使用する質問紙や背景に関する質問項目についてすり合わせを行った。信頼性・妥当性を確かめるため、香港においてミニマムなデータ収集を行った。また、データ収集を行う医療機関や保健センターの概要を確認した。</p> <p>平成29年3月9日、10日に‘Literature Search Finding on association between postpartum depression and sleep disturbance’をポスター発表し、他の研究者と意見交換を行った。内容は産後うつと睡眠に関する研究について文献検討をした結果、10年間に23件の文献が公表されていた。EPDSと睡眠に関する自記式質問紙を用いて量的分析をする研究が主流であり15件だった。産後の睡眠障害を改善する看護介入のアウトカムとして、sleep disturbance を測定するための質問紙を用いること、産後うつの関連要因として socio-demographic data を用いることが妥当であると考えられた。</p> <p>平成29年度から日本と香港においてデータ収集に着手するための素地が整った。この研究が遂行された暁には地域で子育てをする母親の産後うつを予防する介入につながる。</p> | | | | | |
| 成果資料目録 | <p><学会発表></p> <p>Yuki Okada, Rie Ikeda : Literature Search Finding on association between postpartum depression and sleep disturbance, The 20th East Asian Forum of Nursing Scholars, Hong Kong</p> | | | | | |

地域貢献への
反映を踏まえて
記述のこと